

務 台

しゅん

すけ

むたい俊介 ニュース

2012年~2013年 冬号 / No.11



■公式Twitter ▶ @mutaishunsuke ■ホームページ ▶ www.mutai-shunsuke.jp ■facebook ▶ https://www.facebook.com/shunsuke.mutai



▲坂本龍馬先生と意気投合

むたい俊介プロフィール

昭和31年 (1956年) 安曇野市(旧三郷村)生まれ 大田市・旧豊科町で育つ
 昭和50年 松本深志高校卒業
 昭和55年 東京大学法学部卒業、旧自治省入省後、茨城県総務部長、
 地方分権推進委員会参事官、総務省消防庁防災課長、総務省調整課長、
 総務省大臣官房参事官、自治体国際化協会ロンドン事務所長などを歴任
 平成19年 この間武蔵大学・信州大学非常勤講師、関西学院大学客員研究員も務める
 平成20年 自民党長野県第二選挙区支部長就任、翌年衆議院選挙に初挑戦
 平成22年 神奈川大学法学部自治行政学学科教授を兼ねる

■クライシスマネジメント協議会理事、地域安全学会元理事、日本地方財政学会、日本自治学会会員

ごあいさつ 皆様お元気ですか。天変地異と政治の混乱が連動し、我が国の現状は極めて厳しい状況にあります。このようなときにこそ足下を固め、地域を大事にする視座が必要だと考えています。「実績なき継続」か、「刷新による再生」かを問いかけ、今こそ「選手交代」を訴え、地域を再生するための政治機能の回復・強化に向けて邁進しています。



むたい俊介メールマガジン

むたい俊介から皆様に、毎週の活動報告や政策提案、講演会などのご案内をお届けしております。ご登録をご希望の方は mail@mutai-shunsuke.jp にメールをお送りください。

インターネット
テレビ番組

「むたい俊介アワー」

USTREAM ▶ <http://ustre.am/jyRg>

定期的にインターネット中継によるテレビ番組を放送しております。様々な方をゲストにお迎えし、むたい俊介との対談を放送中。是非御覧ください。過去収録分がアーカイブズで御覧いただけます。



▲サッカーチーム理事長と



▲震災対応で活躍した町会長と



▲子育て応援サイトを立ち上げた女性と



▲東日本大震災災害現場にいち早く駆けつけた地元病院の救急救命士と



▲古民家再生第一人者の建築設計士と



▲地元のWEB会社の若手経営者と



▲スポーツドクター小松裕氏と
(その後長野一区の支部長に就任)



▲世界の農業現場を見てきた酪農家と

日々の活動をwebで公開しています



公式Twitter
@mutaishunsuke



ホームページ
www.mutai-shunsuke.jp



facebook
<https://www.facebook.com/shunsuke.mutai>

発行元 自由民主党長野県第二選挙区支部 長野県松本市白板2-3-30 大永第3ビル 101
 TEL: 0263-33-0518 FAX: 0263-33-0519 mail: office@mutai-shunsuke.jp



活動報告

2012年下半期の活動状況を抽出しました

「地域おこし協力隊シンポジウム」に参加（8月19日）

午前中、安曇野市、松本市内の知人宅を訪問。昼前に、女性の集いに参加後、松本駅にシンポジウムの講師を迎える。午後、麻績村で開催された「地域おこし協力隊」シンポジウムにファシリテーターとして参加。総務省の担当室長の基調講演の後、麻績村、生坂村、小谷村、小川村の協力隊員から意見発表。中山間地振興のキーワードは、都会の人材を問題意識をもって如何に地域に引き込むか、であることを再認識。高野麻績村長、藤沢生坂村長、相澤小谷村室長も参加。50名の地元の皆さまが熱心に聞き入る。夕方、松本駅前にて街頭演説。その後、松本市内の花時計公園のイベント、安曇野市豊科成相の八坂神社の風祭りに顔を出す。



▲ 「地域おこし協力隊」シンポで司会を務める

松本市の後援会設立総会（9月22日）



▲ 盛況の松本市後援会設立総会の模様

午前中から昼過ぎにかけて池田町堀ノ内地区を地元支援者により訪問。地域の取りまとめ役の先導による訪問は浸透度抜群。堀ノ内地区は我が曾祖父の屋敷があったところ。今は集落の集会場になっているその場所は町医者を開業していた昔日の面影はないものの昔の患者はそのことを覚えてくれていて、「薄井左馬次先生の曾孫さんが来てくれたんだ」と親しみをもって接してくれることが有難い。地区の祭り準備の若者とも記念写真。午後、松本駅前にて街頭演説。夕方、自民党松本支部の発会式、むたい俊介松本市後援会の発会式を連続して開催。200名もの皆様が集まり盛会。吉田博美県連会長、若林健太参議院議員らが来賓として御挨拶。

東京で防災研究会を開催（9月26日）

午前中、東京で定例の第12回防災行政研究会。8月に米国テキサス州所在の防災訓練所視察ツアーの報告とそれを踏まえた今後の我が国の対応について議論。在京の防災関係企業のほかに防災系マスコミ関係者が参加。午後、自民党本部の総裁選挙の立会。決選投票で安倍晋三氏が石破茂氏を僅差で逆転。私が支援した両トップで次期総選挙に臨むことになるはず。夕方、神野直彦東大名誉教授と懇談。日本維新の会の地方財政に関する政策について意見交換。全く同じ認識を共有していることを再確認。



▲ 定例の防災研究会

各地区の運動会に参加（10月8日）



▲ 運動会参加者の皆様と会話

午前中、松本市高宮地区、筑北村本城地区、坂北地区、坂井地区の運動会に順次顔を出す。「余りにも酷い政治を刷新してほしい」との多くの声を頂戴する。「私も、近いうちの政治運動会に出場します」と挨拶する。午後、松本市内の旧市街地を町内会幹部のリレー方式によりお引き回し賜る。松本市内の町内会を挙げての期待感を感じる。夕方、松本市白板交差点にて街頭演説。その後、安曇野市の居酒屋で安曇野の篤農家のグループの皆さまと懇談。

写真ギャラリー

地域を巡る中での各地区の皆様との触れ合いの瞬間です。ご協力有難うございました。



▲ 長野市鬼無里の刈入れたばかりの稲穂の前で



▲ 朝日村の稲刈りに勤しむ方と



▲ 池田町のキビ畑の中でお話を伺う



▲ 安曇野市堀金地区の農家の方と



▲ 松本市四賀地区を訪ねて



▲ 松本市梓川地区を訪問中野沢菜を収穫中の女性と会話



▲ 松本市内田地区でのお祭で



▲ 松本市内の文化祭にて



▲ 安曇野市豊科徳治郎のお祭にて



▲ 池田町堀之内のお祭を支える若者と



▲ サイクリング大会に参加



▲ テキサス州グッドフェロー空軍基地の消防学校にて



▲ 安曇野市日赤病院の看護師の皆さんと意見交換



▲ 介護事業者の会「おひさまの会」で講師を務める



▲ 長野市豊野で支援者と懇談



▲ 唐沢俊二郎元代議士と



▲ 村井仁長野県知事(当時)と



▲ 自民党のエネルギー政策勉強会で河野太郎氏、飯田哲也氏と

Message メッセージ

「要素技術とプロデュース能力」

～iPhone5と防災システム～ 務台 俊介

アップルのiPhone5が好調な販売を続けている。私はiPhoneではないものの、別の会社のスマートフォンを活用しているが、その利便性に驚愕している。日々進化するそのスピードの速さにはなかなかついていけない。

スマホの劇的な進化を前に、日本がその進化に取り残されているのではないかと一抹の不安を覚えていたところ、その懸念を払拭する記事に接した。

10月6日の朝日新聞で、「米国アップル社のiPhone5の中身はその50%超が日本企業製」との記事を目にした。電子機器の解体と分析を行う専門会社が、iPhone5を実際に分解し、約1千個の電子部品を1つずつ顕微鏡で調べ、部品の刻印や形状、関係者への取材をもとに製造元を特定したところ、50%以上の部品が日本製であったというものである。私の地元の長野県を代表する企業であるセイコーエプソンも水晶振動子を供給していることが判明した。

アップル向けの部品を供給している工場はフル稼働状態が続き、「アップル特需」に沸いているとの話である。

私はこの記事をどのように理解したら良いのかと正直迷った。素直に喜んでいいのか、或いは、これだけの要素技術を持ちながら、アップルの様な製品を何故日本は生み出せないのか深刻に考えるべきなのか。恐らく両方の評価なのであろう。そして、実はこの記事を見て私は既視感(デジャブ)を覚えた。それは防災面での日本の対応についてかねて同様の指摘を受けていたからである。

米国人の私の友人でレオ・ボスナーという連邦危機管理庁(FEMA)の元職員がいるが、彼は日本の危機管理体制に詳しく、彼の論文である「米国専門家が見た日本の危機管理」の中で、「日本は災害に起因する問題を処理する技術的人的能力には事欠かない。病院や消防機関、政府機関、自衛隊、NGO、個人のボランティアともに意識の高い人々がおり、質の高い救急救助の設備施設が備わり、最新の電子機器による災害探知・警報システムが導入されており、危機管理の様々な局面に関して豊富な

知識経験を有する多くの市民がいる。しかしながらこれらの能力は分散し、一つの方向に統合されているとは言えない。日本の危機管理責任者を見ていると、優秀な選手はいるもののコーチもあてがわれず、訓練も行われず、試合の組み立てもなく、戦略がないスポーツチームのように思える。こうした環境の中では個人プレーヤーの能力が如何に高くとも試合に勝つことは極めて難しい」と語っているのである。

東日本大震災でも、消防、警察、自衛隊などの各機関の活動はしっかりしていたものの、全体としての政府の初動対応は極めてちぐはぐで、政府に備わっていた様々な情報が統合され、有効に機能したとは言えなかった。

様々な要素技術は世界最高水準にあるものの、消費者の心を打つ商品開発のプロデュースまでに至らないということは、日本の防災面の課題と酷似していると感じるのは私だけではあるまい。

しかし、要素技術の素晴らしさや個々の日本の機関の素晴らしいパフォーマンスが存在しているということは、それらの組み合わせについて大いに工夫・努力すれば、我が国の産業や防災システムは飛躍的にその水準が高くなるということが絶対に言える。

願わくば、そのようなプロデュース能力、マネジメント能力が発揮されるような骨太の舞台を長期的視点に立つ政治が用意していかなければならないと強く思う次第である。



▲ 米国テキサス州の防災研修施設にて

あなたの声をお聞かせください。
政策や日本の将来を語り合しましょう。
ぜひ、お気軽にお立ち寄り下さい!

自由民主党長野県第二選挙区支部
長野県松本市白坂2-3-30 大永第3ビル101
TEL:0263-33-0518
FAX:0263-33-0519
mail:office@mutai-shunsuke.jp

